

Sky Seminar



マネを守り、森を守る

持続可能な社会を目指して

東日本大震災は人々にこれまでの価値観を変貌させることを迫り、自然と共生する持続可能な社会形成を課題として明確にしました。そのような中で僕は、ヤマネの研究から「生物多様性保全のための共生技術」「環境教育」等に取り組んでいます。

森に棲むヤマネは体重18グラム（鶏卵は50グラム）程で、目のくりっとした、リスを小さくしたような天然記念物の動物です。「枝が道」の動物で枝を逆さまに移動しながら、花、果実、昆虫を食べ、枝上に巣をつくりま

た。それで、企業行政有志たちと協働で道路上をヤマネやリスが渡れる「歩道橋」（アニマルパスウェイ）の研究開発と普及を発信しています。ヤマネを守ることは、森を守り、みんなを守ることにつながるからです。今後、持続可能な社会を形成するためには、さまざまな環境共生技術の開発が必要で、その一つを社会に普及させたいと思っています。

環境との共生を目指すことを指導するのが環境教育で、そのフィールドの一つが田んぼです。田んぼには多くの役割があります。「食料生産」「保水」「気温緩衝機能」「文化の揺り籠」「自然的自然観醸成」「食農教育の場」「循環型社会の要」「経済の鍵」「癒しの場」そして、約6000種もの生物が棲む「生物多様性育成」の役割です。このような田んぼとヤマネたちが棲む森を守ることは、未来をも守ることにつながります。

宇宙を高速で飛ぶロケットは多様な部品から構成され、一つでも失うと大変なことになるように、私たちが乗っている宇宙船「地球号」も地球を構成している生き物の一つの種でも失うと大変なことになります。地球号が今後とも持続可能であるようにするための環境教育を僕たちは、今後とも開発し、幼児から大学生・シニアまでの世代に伝えていきたいと願っています。

湊 秋作

関西学院大学
教育学部教授

みなとしゅうさく
和歌山生まれ。都留文科大学文学部初等教育学科卒業、兵庫教育大学大学院修士。小学校教師をしながらヤマネ研究に従事し、京都大学理学部で理学博士を得る。コウモリ、田んぼ、ヤマネの環境保全活動を実施。小学校教師時代から現在に至るまで幼児から児童、大学、社会人、企業対象の環境教育を研究実践する。持続可能な社会を形成するための教育を開発中。現在、山梨県のキープ協会やまねミュージアム（学研）、「田んぼの楽校」（山と溪谷社）等多数。

世界市民を育む、学びがある。

 **関西学院大学**
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号

 **125**
関西学院
1889-2014